

(1) グリーンポジションに合わせます

Z-50Pカメラには、高度な自動露出機能が付いていますが、ここでは、最も簡単に使えるグリーンポジションを使用します。他の露出モードについては39ページをご覧ください。

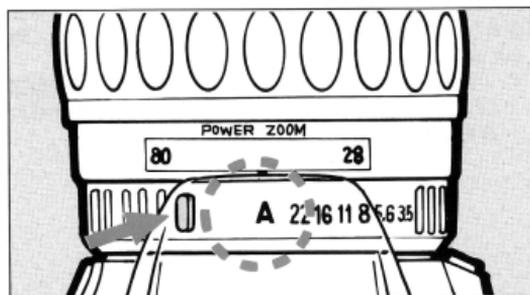
* このモードは、最も簡単なモード〔プログラム自動露出〕ですから、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

II 基本的な使い方

[撮影]

21

1

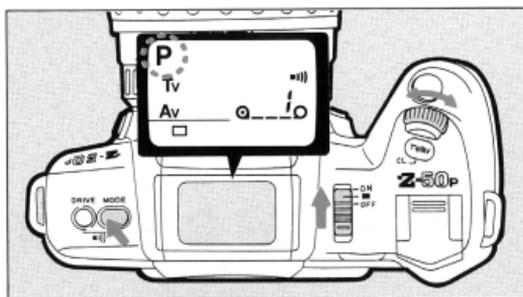


グリーンポジションにします

1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

* レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。

2



2. 電源スイッチを  に合わせると、表示パネルに  が表示されます。

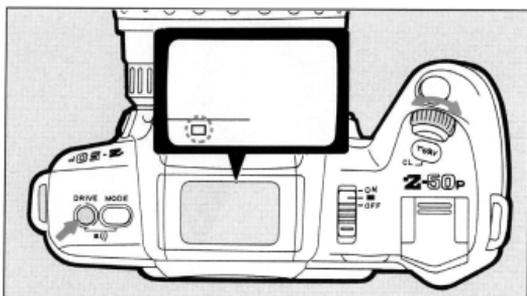
* グリーンポジションでは、プログラムシフトおよび露出補正は働きません。

22

(2) ドライブモードについて

ドライブモードは次の3種類を選択できます。

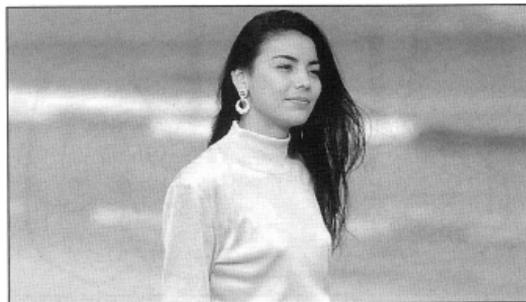
-  = 1コマ撮影
シャッターボタンを押すごとに、1コマずつ撮影されます。最も一般的なドライブモードです。
-  = 連続撮影
シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。[54ページ参照]
-  = セルフタイマー撮影
シャッターボタンを押してから、約12秒後にシャッターが切れます。
詳しくは、54ページをご覧ください。



ドライブモードの変更方法

ドライブボタンを押したまま、セレクトダイヤルを回すとドライブモードを変更できます。ここでは、一般的な1コマ撮影  に合わせておいてください。

(3) ズームレンズの使い方



望遠側

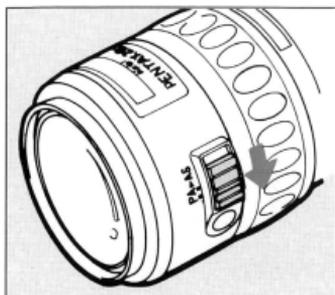


広角側

ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファインダー像が大きくなったり[テレ]、小さくなったり[ワイド]します。好みの位置に合わせて撮影してください。

- * レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲が広い広角[ワイド]側、大きいときは遠いものを大きく写す望遠[テレ]側になります。
- * Z-50PにペンタックスF Aズームレンズを組み合わせると、パワーズーム[電動ズーム]として使用できます。
- * ペンタックスFズームレンズなどと組み合わせる場合は、マニュアルズーム[手動ズーム]としてご使用ください。

1



パワーズームで使用するには

* ペンタックスFAズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

1. FAズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを[P]（一部レンズでは[PZ]）に合わせます。

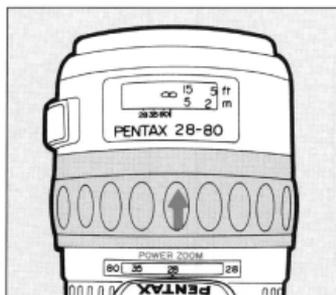
2. ズームリングを前側に押し出すようにして、図のように「POWER ZOOM」が見える状態にします。

* 工場出荷時は、この状態になっています。

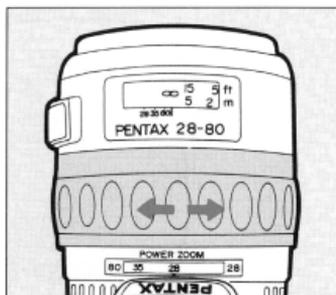
3. ズームリングを右に回すと望遠[テレ]側へ、左に回すと広角[ワイド]側に動き、手を離すと止まります。

なお、ズームリングは、回転させる角度によって、ズーム速度が3段階に変化します。ズームリング

2



3



の回転角度を大きくする[当て付ける]と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズームができます。

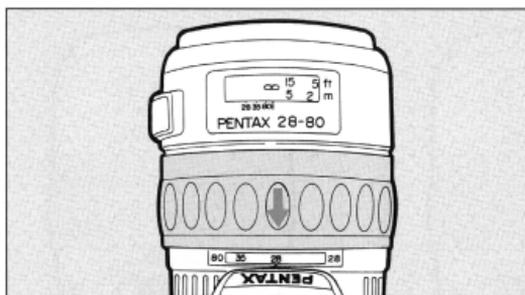
* パワーズームでズームリングをすると自動的にピント合わせが行われます。

ただし、最終的なピント合わせはシャッターボタンの半押しで行ってください。

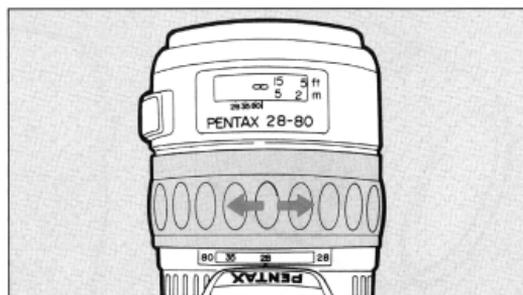
* FAズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。この場合、距離リングの位置は∞に、焦点距離はレンズの長さが最短となる位置になります。[FAズーム100～300mmや250～600mmを除く。]

(25)

1



2



マニュアルズームで使用するには

* FAズームレンズは、ズームリングの切り替えて、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、Fズームレンズと同様に使用できます。

1. ズームリングを手前に引いて、「POWER ZOOM」が隠れるようにします。

2. ズームリングを右に回すと望遠[テレ]側へ、左に回すと広角[ワイド]側に焦点距離が変化しますので、好みの焦点距離に合わせてください。

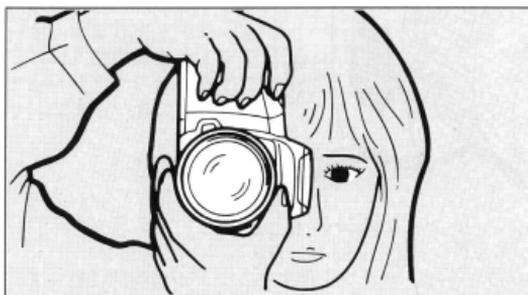
(26)

(4) カメラの構え方

横位置



縦位置



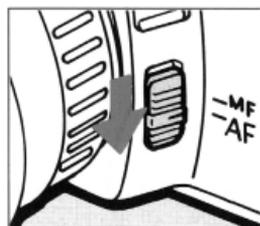
撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

- * シャッターボタンは指の腹で静かに押します。[強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。]
- * 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。
- * 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチF」の利用をお勧めします。

- * 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(27)

(5) オートフォーカスで使います



図のように、フォーカスモードレバーには2つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーを **AF** に合わせます。

フォーカスモードレバーについて

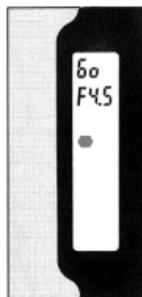
- **AF** = オートフォーカス
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。
- **MF** = マニュアルフォーカス
手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに合わせます。
[38 ページ参照]

(6) オートフォーカスでピントを合わせます

1



2



1. 写真のように、AFフレーム **C** を写したいものに合わせシャッターボタンを半押しします。
2. ピントが合うと、図のようにファインダー内の **□** が光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
 - * 電子音を消すことができます。[59 ページ参照]
 - * オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。
 - * **□** が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときます。

- ① 撮影距離が近すぎる
- ② オートフォーカスの苦手な被写体の場合 [38 ページ参照]

(28)

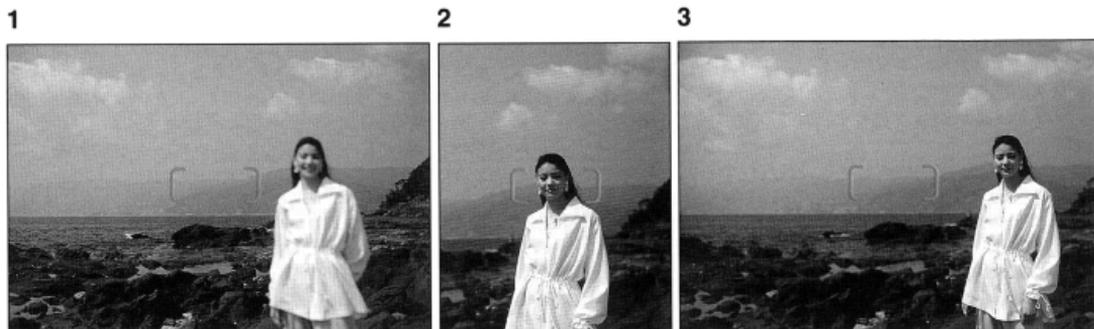
- さらにシャッターボタンを押し切ると撮影できます。
- * ピントが合うまでシャッターは、切れません。
- * シャッターボタンを半押しして、 が光っている間は、ピントが固定[フォーカスロック]されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。[30ページ参照]
- * 一度ファインダー内の  が点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。
- * SMCペンタックスFソフト85mm F2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。[38ページもご覧ください]
- * 構図上、AFフレーム  がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影[30ページ参照]」をしてください。

動体予測

シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に被写体にピントを合わせ続けます。

- * 被写体が速すぎるときには、シャッターが切れないことがあります。

29



フォーカスロック撮影について

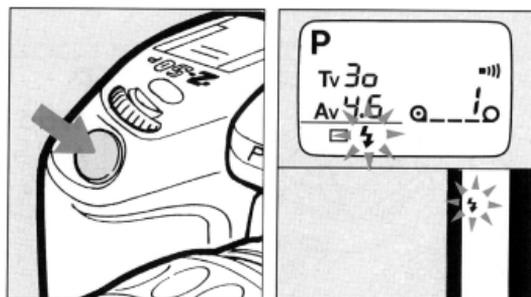
ピント合わせは画面中央のAFフレーム  で行なわれます。

構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック[ピント一時固定]撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

1. AFフレーム  が外れたまま撮影すると、写真のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにAFフレーム  を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして  を点灯させたままにしておきます。[ピントを記憶させる操作です。]

3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。
- * シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の  が消えると、フォーカスロックは解除されます。
- * 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。
- * フォーカスロックは1コマ撮影をすると解除されます。

30

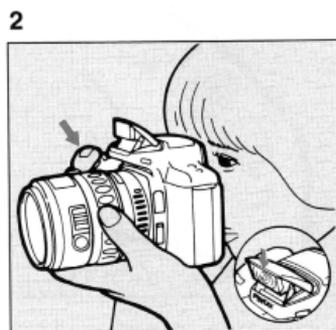
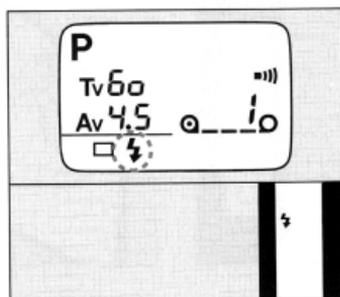
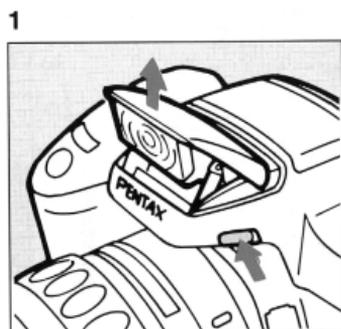


シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って撮影します。シャッターを切ると、自動的にフィルムが巻き上げられ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

- * 被写体が暗い場合や逆光の場合には、ファインダー内に のストロボお勧めマークが点滅し、カメラがストロボの使用をお勧めします。[表示パネルにも が点滅表示します。]
- * ストロボお勧めマークが出た場合には、内蔵ストロボを使って撮影しましょう。[32ページをご覧ください。]
- * 標準撮影のときは、パノラマシグナル が消えていることを確認してください。

ストロボお勧めマークについて

カメラの露出モードをプログラム・絞り優先自動露出でを使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内と表示パネルに の点滅 [ストロボお勧めマーク] が出て、ストロボの使用を勧めます。なお、シャッター優先自動露出では、逆光時のみストロボお勧めマークがでます。



1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上へ飛び出させます。
 - * 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルに が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも が点灯表示されます。
 - * シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内にストロボ同調速度と絞りが表示されます。
2. さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押しつけて収納してください。

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4	0.9~4.6m
F2	0.8~3.9m
F2.8	0.7~3.3m
F3.5, F4.7	0.7~2.7m
F5.6	0.7~2.3m

プログラムTTLオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1:1.4」のように表示されています。[F1.4の場合]

- *露出モードがプログラム自動露出の場合、内蔵ストロボはプログラムTTLオートストロボとして働きます。
- *プログラムTTLオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がF4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。
- *0.7mより近距離で撮影すると露出が正しく制御されません。また、ケラレが出たりしますのでご注意ください。

ご使用上の注意

レンズが不適切な場合の警告表示

下記のFおよびFAレンズを使用すると、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの  やファインダー内の  が点滅して警告します。

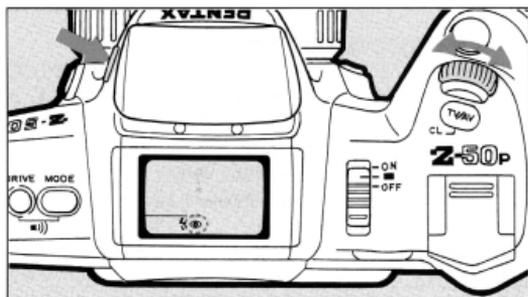
- レンズの焦点距離が28mm未満の場合
- レンズの焦点距離が300mm以上の場合
[FAズーム100~300mmの300mmを除く]

上記の範囲内でも一部F・FAズームレンズの焦点距離では警告が出ることがあります。

警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。FA・Fレンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから、特にご注意ください。

- * レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがありますので使わないでください。
- * Fズーム24~50mmレンズの場合、焦点距離が28~35mmでは警告が出ますが、ご使用いただけます。
- * FAズーム28~105mmレンズの場合、焦点距離が約35~40mmでは警告は出ませんが、ケラレが発生することがありますので1m以上の距離で撮影してください。
- * FAズーム28~70mmレンズでは、全範囲でケラレが発生します。
- * FAズーム80~200mmレンズは、焦点距離を135mm以上にすれば使用できます。

33



赤目軽減機能について

Z-50Pには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。

シャッターが切れる直前にストロボ発光[小光量]が行なわれ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので、目が赤くなるのを目立たなくすることができます。

セット方法

ストロボスイッチを押したまま表示パネルの  以外の表示が消えたらセレクトダイヤルを回して表示パネルに  を表示させます。

- * 赤目軽減機能とAF500FTZなどのストロボのスレブ機能を組み合わせて撮影をすると、1度目のプリ発光で外付けストロボが発光してしまいますので、スレブ使用時は赤目軽減機能は使わないでください。
- * 外付けストロボのみを使用しているときは、表示パネルに  が表示されていてもストロボ2度発光による赤目軽減機能は働きません。
- * 赤目軽減機能の解除は、ストロボスイッチを押したままセレクトダイヤルを回して表示パネルの  表示を消してください。

赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目網膜に反射するため起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。